

氏名： 石井クンツ昌子 (Ishii-Kuntz Masako)  
所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系  
職名： 教授  
学位： 社会学博士 (家族社会学 ジェンダー社会学専攻)  
専門分野： 家族社会学、ジェンダー社会学、統計学、社会調査法、社会心理学、高齢社会学  
URL： [http://www.soc.ocha.ac.jp/Site/Teacher\\_Ishii.html](http://www.soc.ocha.ac.jp/Site/Teacher_Ishii.html)  
E-mail： [ishii.kuntz.masako@ocha.ac.jp](mailto:ishii.kuntz.masako@ocha.ac.jp)

#### ◆研究キーワード / Keywords

ワーク・ライフ・バランス／家族とジェンダー／父親の育児・家事参加／IT社会と家族関係／家族と社会階層  
Work and Life Balance / Families and Gender / Fathers' participation in housework and child care /  
Family relationships in IT society / Families and social class

#### ◆主要業績

総数 (4) 件

- Asian American Families, Encyclopedia of Human Relationships, 2008
- 父親の役割と子育て参加：その現状と規定要因、家族への影響について、季刊家計経済研究 2008
- Working-Class Fatherhood and Masculinities in Contemporary Japan, Handbook of Feminist Research, edited by Sally Gallagher, April Few, and Katherine Allen
- Participant, Expert Group Meeting, United Nations, Geneva, Switzerland, October 6-10, 2008

#### ◆研究内容 / Research Pursuits

社会学の視点から家庭内のジェンダーダイナミクスに焦点をあてて研究している。特に、家庭内性別役割分担、男性の育児・家事参加に関してその規定要因を量的データにより実証したり、質的データにより詳述してきた。またワーク・ライフ・バランスの実現に向けての政策提言につながる研究も続けている。最近ではIT社会における育児の実態や親の育児満足度についての研究も行っている。

From sociological perspectives, my research focuses on gendered dynamics within families. In particular, I examine gendered division of housework, fathers' participation in child care and household labor using quantitative data. I also study the contexts of paternal involvement using qualitative data. I continue to conduct policy-oriented research to promote work-life-balance in Japanese families. My recent work examines how child rearing and parenting satisfaction are influenced by the use of IT technology.

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

社会学視点から家族関係や役割を理解することを目的で学部では「家族社会学総論」「家族社会学演習」、修士レベルでは「家族関係論」、博士レベルでは「家族論」を担当している。これらのクラスでは日米の家族社会学研究文献を読み、ディスカッションなどを行っている。

Viewing family relationships and roles from sociological perspectives, I teach "Family Sociology" and "Family Sociology Seminar" at undergraduate level, "Family Relations" at Master's level, and "Family Theory and Methods" at the Doctoral level. In these courses, students read family sociology literature in Japan and the U.S. for in-class discussions.

## ◆研究計画

IT社会における育児期の親の実態と子育て満足度についての研究を平成19年度より開始した。インターネットや携帯メールを頻繁に使う若い親たちが多くなってきているが、このような媒体を使用した育児サポートがどのように役に立っているのか、またこのインフォーマルサポートが育児期の父親・母親にどのような影響を与えているのかを研究する。平成19年度は質的データを収集して平成20年度は量的データを収集した。平成21年度は量的データを詳細に分析する予定である。また諸学会での研究発表も行う。

## ◆メッセージ

大学は「考えること」の多様性を学ぶ場だと思います。例えば家族に関しても様々な研究領域がありますが、多くの文献を読み、家族についての考え方の多様性を学んでほしいです。丸暗記の勉強法ではなく、学んだこと、読んだことなどを常にCriticalに分析する力を養うのが大学だと思います。自分の興味のある研究について積極的にアプローチしていくモチベーションの高い学部生、院生を歓迎します。